

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0770301786		
法人名	医療法人平成会		
事業所名	健康倶楽部郡山 グループホーム「オークヒルズ」A棟		
所在地	福島県郡山市富久山町八山田字南広谷20-4		
自己評価作成日	平成29年 9月 19日	評価結果市町村受理日	平成29年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年11月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・平成15年にオープンした全面バリアフリーのグループホームである。新興住宅地に位置し、平屋建て2ユニットでお客様同士の交流も盛んなグループホームである。  
 また、ホーム内は家庭的な雰囲気、お客様同士が顔馴染みとなり楽しく交流出来るよう支援している。個別ケアにも重点を置いており、職員が一丸となってお客様の夢や希望を叶えつつ、それぞれの想いを形にし、日々の楽しみとなるよう提供している。さらに、地域を生活の場としており、お客様が外出し地域の方と関わる機会を多く設けている。  
 ・終末期における看取り対応も行っており、住み慣れた場所で最期まで安心して暮らせる環境が整っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

1. 地域との関わりを大切にし、文化祭・運動会・お祭り等の地域行事へ積極的に参加し、各種ボランティアの受け入れや散歩・買い物等を通し、日常的に利用者が地域住民との交流が持てるよう支援している。  
 2. 利用者・家族に満足頂けるサービスを提供するため、毎年「お客様アンケート」や「家族交流会」を実施したり、「お客様会議」を毎月開催し意向を把握している。利用者・家族の意向に合わせ、医師・看護師の全面的な協力体制があり、事業所での看取りが行われている。支援後のカンファレンスや勉強会を実施し、より良いサービスの提供に努めている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとして地域の方や馴染みの方との交流に重点を置き職員間で話しあい、いかにお客様に楽しみを提供出来るか考慮しつつ理念を作成している。また理念を掲示し日常の中に楽しみを支援できているか、振り返る機会を設けながら支援している。	管理者の変更に伴い、職員間で話し合い、事業所理念を今年作り直した。理念を事業所内に掲示し、各種会議で理念を念頭に置いたサービスのあり方などについて、職員間で振り返りながら意識づけがなされケアに反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会に加入し回覧板を回すなどの日常的な交流の他、回覧板をお客様へお見せし(有事)お客様が希望された運動会や夏祭りなどのイベントへ積極的に参加している。有事の際、地域の方と挨拶を交わしたり握手をされるなど触れ合いがある。	自治会に加入し、日頃から積極的に地域行事(神社の祭り・小学校の夏祭り・文化祭・運動会等)に利用者と参加している。地域の小学生やボランティア、運営推進委員が事業所行事等に訪れる等双方向で交流を行っている。また、散歩や買い物で日常的に地域との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域広報誌を作成した際に、回覧板を回していたが、地域の高校生がホームに来所されたことや小学生が体験に来た際も、昔遊び等、お客様と共に創作活動を行われた際等に認知症ケアについてお伝えしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進メンバーの方へは避難訓練のご様子等を見て頂き、意見を頂いている。また行事の様子や日常のお客様の様子を広報誌やブログで紹介し意見をいただき、サービス向上と改善に活かしている。	運営推進会議が定期的に開催され、会議では事業所の取り組み内容や現状について報告し、委員の意見や助言(地域行事の案内等)を頂きながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のサービス相談員の方が月に1回訪問され、お客様と過ごして下さっている。日常のご様子や行事の様子等も重ねてお伝えし、時には参加してお客様と共に楽しい時間を過ごしていただいている。	日頃から事業所の現状を伝え、各種の報告等を行う中で市の担当者と連携を図り、関係づくりに努めている。また、市介護相談員を受入れ、アドバイスを頂き利用者の支援に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の外部研修に参加した職員が事業所の職員会議で勉強会を開催している。職員への共通理解を深めている。玄関やテラスの施錠は夜間以外、開放しお客様の自由な暮らしを支援している。	事業所として身体拘束をしないことを徹底し、研修会等により、身体拘束による弊害の理解を深めている。一人で外出する利用者には、後をついて行き、さりげない声かけをして安全面に配慮し同行しながら対応している。日中、玄関の鍵はかけていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行っている。不適切なケアになっていないか職員間で話し合い、自分たちのケアの振り返りを行い虐待防止に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は難しい制度であるが、相談を受けた際は、ご家族様、利用者の方へ説明できるよう、今後も理解を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に家族様が不安に思っていることはないか一つ一つ説明し、同意を得てから契約締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護サービス相談員がお客様の話を傾聴し意見をお伺いして下さったり、お客様アンケートでご家族様のご意見やニーズの聞き取りを行えるよう努めている。また、面会時等に要望や意見をお伺いしている。意見や要望が聞かれた際は職員会議や申し送りを行いサービス向上に努めている。	お客様会議を開催し、利用者の意見や希望を聞きサービスに活かしている。また、家族等にはアンケートや家族会を実施し、面会時に意見・要望を聞き、それらを法人全体で共有しながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員で職員会議や申し送り等で意見交換をできる場を設けている。必要時は法人の上司に相談している。	職員の意見や要望は職員会議・ミーティング・目標管理の個別面談・日常業務の関わり等で把握し、事業所や法人で検討し、採り入れられている。職員からの提案で業務見直し等が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の目標管理で個人面談を行い成果の確認や意見の聞き取りを行っている。勤務表作成時は職員の休み希望を聞き管理者は随時職員と話している。運営者は管理者と随時面談し職員の状況を把握するようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や力量に応じて、法人内外の研修に参加しスキルアップを図っている。またグループホーム協議会等の研修へ参加できるような機会を確保している。研修へ参加した職員は、会議時に報告や勉強会を開催し情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会研修に参加し交流を図っている。職員の段階に合わせた法人内研修もあり、同業者や法人内職員と交流、意見交換し高め合っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実態調査を行い、本人が抱える不安やニーズを把握し、安心してホームを利用していただけるよう、ケアプランに取り入れている。全職員が信頼関係を築けるように、関わりを多く持つことを意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様にも丁寧に説明を行い、思いを把握し、本人の思いと照らし合わせつつ、支援策をケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族様からの相談やニーズに対して柔軟な対応が出来るように心掛け、介護支援専門員を中心にカンファレンスの実施やケアプランへの反映及び説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で様々なことを教えていただき、お互いに支え合う、助け合う関係性の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月発行している広報誌の他、面会時には近況のご様子を細やかにお伝えしている。また、お好きな場所でゆっくり過ごせる環境作りに配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望に合わせて、馴染みの場所へ外出の機会を設けたり、知人や友人の方が面会に来られた際には、ゆっくりと過ごせる環境作りに配慮している。	利用者の思いを大切にし、自宅や馴染みの場所、思い出の場所へ出かけられるよう様々な企画をし、家族の協力も得ながら支援している。また、事業所へ友人や家族が訪れた際は、お茶を出し、ゆっくり過ごしてもらえよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席等はお客様同士の関係や相性に考慮し、レクリエーションや生活リハビリを行う際に、関わり合いや馴染みの関係を持てるような環境作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用していただいたことに対する感謝の気持ちをお伝えするとともに、ホームで過ごされていた様子や状況をお伝えしている。入院や退居後も面会に伺い、関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お客様との関わりを日頃から大切に、思いや希望を汲み取り形に出来るよう努めている。特にお客様会議では様々な議題で希望を伺っている。	お客様会議や日頃の生活の中での会話・表情から利用者の思いや意向をくみ取り支援している。意思表示の困難な利用者は家族や関係者から話を聞き情報を得て、利用者本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話や契約時、ご家族様や本人から今までの暮らしや生活環境について伺い、ホームでもなじみの環境に近づけるよう職員間で情報共有し支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースで生活できることを一番に考え、今できることは今後も継続して行えるよう、ケアプランに反映させる等して支援している。また現状の把握に努め、職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族様の意向を伺い、チーム全体で話し合うカンファレンスの場で意見やアイデアを出し合い、ケアプランへ反映させている。	利用者の現状把握を行い、利用者・家族の意向をもとに、職員の意見を取り入れた介護計画を作成している。介護計画の見直しは3ヶ月毎に行っており、心身状態の変化やモニタリング結果をみながら、見直しを行い新たな介護計画を立てている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアオンラインや生活表へ本人の言葉や様子を記録として残し、情報を共有している。記録をもとに職員間での話し合い、今後のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お客様のニーズや状態の変化により面会時等にニーズを伺い、カンファレンス時に柔軟な対応が出来るよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催の夏祭りや運動会、文化祭等の行事に積極的に参加し、地域の中で楽しみを提供できるよう支援を行っている。防災訓練時には、消防団の方や運営推進会議のメンバーに参加していただき、地域との連携を図り安心して過ごせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及びご家族様の希望で決定していただいている。家族様が受診同行される際には、ホームでのご様子をお伝えすると共に受診記録表に状態を記載し適切な医療を受けられるよう支援している。ご家族様の状況により受診対応させていただく場合には、その日のうちに受診報告を行い安心できるよう努めている。	利用者・家族の希望に沿った従来からのかかりつけ医受診を支援している。通院は家族が付き添うことを基本としているが家族の都合で職員が受診支援することもある。受診前の身体状態及び結果は「受診記録」を使い医師・家族・職員間で情報を共有し適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診の結果や特変事項について申し送りや報告を行っている。急変時にもすぐに看護師が対応できるよう、連絡体制を整備している。お客様の状態を理解し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人様、ご家族様の意向や状態を理解した上で相談、助言等を行っている。入院時には定期的に面会に伺い入院先と密に連携を図り、退院に向けての情報交換を行い安心してホームに戻れるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より終末期の話がきかれた際には、ご家族様及びご本人様と十分に話し合い意向を確認している。訪問診療への切り替え等々、相談や支援を行い多職種との連携を図り穏やかで安心した環境で過ごせるよう支援に取り組んでいる。	契約時、利用者・家族へ重度化や終末期に向けた対応を事業所指針により説明し同意を得ている。また、終末期の意向確認を書面で行い、看取り実施の際は、医師からの説明があり、家族・事業所が方針を共有しチームで支援に取り組み、数多くの看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応や事故対応について定期的な勉強会を実施し、起こり得るリスクや技術の習得に努めている。緊急時マニュアルも作成しており、周知徹底を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練時には地域の方や消防に協力要請し、アドバイス等を頂いている。毎月の避難訓練では様々な想定で訓練を実施し、勉強会にて全職員が安全な避難方法を理解している。防災委員を中心に備蓄品の管理を行い災害時に備えている。	避難訓練計画により、地震・火災を想定した避難訓練(消防署立ち会いの総合防災訓練を含む)を毎月、実施している。火災想定は職員が少ない夜間を想定した訓練を重点に実施している。訓練に参加した運営推進会議委員の意見を反映させながら取り組んでいる。非常時の備蓄品も準備されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、お一人おひとりを尊重した呼び方でお呼びしている。声掛けの配慮や言葉使い等、接遇についての勉強会を実施している。	利用者一人ひとりの尊厳とプライバシー保護についての研修会を実施し、利用者の人格と尊厳に配慮したケアを全職員で取り組んでいる。また、法人から事業所へ予告なしで訪問があり、利用者への対応等をチェックしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを表現するのが難しい方でも希望や自己決定出来るよう、食べたいものや着たいものを日常的に選ぶ機会を設けている。お客様会議では誕生日や行事等に対する希望や思いを自由に表していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や臥床時間等、お客様のペースに配慮した声かけをさせて頂いている。またお客様の希望やその日の体調によっては食事の時間をずらす等、お客様の状態に配慮したお声掛けを工夫しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お客様が気持ちよく過ごしていただけるよう起床時や入浴時に一緒に服を選んでいただいている。訪問理美容では散髪やカラー、パーマ等の選択の機会を設けその人らしいおしゃれができるよう配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節の野菜を畑でお客様と共に作っている。収穫した野菜は調理方法等を伺いながら、一緒に調理や味付けを行っている。食事が楽しみの場となるよう、苦手な食材も把握し、代替品を提供するなど支援している。	法人の管理栄養士と連携し、栄養バランスを考慮した献立を作成している。お客様会議や日常会話・食事状況から嗜好を把握し、利用者の希望を取り入れた献立となるよう心がけ、菜園で採れた野菜を使い、下処理・片づけ等、利用者の参加を頂きながら楽しい食事となるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携を図りながらバランスのとれた献立作成している。水分が進まないお客様へは主治医に相談し必要水分量の把握に努め、必要に応じて水分カウントを行っている。水分摂取を苦手とする方には、ゼリーにてお出しその方の状態に合わせて調整しお出ししている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけ行い、最初かた介助するのではなく、ご自分で行える所は行っていただき、不十分な箇所のみ介助している。必要に応じて義歯をお預かりし、義歯洗浄剤使用し清潔保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせた声掛けやトイレ誘導を行っている。尿意の無い方やオムツを使用されている方でも日中トイレ誘導を行うことで、トイレでの排泄を行えるよう支援している。	生活チェック表で排泄パターンを把握し、利用者の排泄サイン(動作や仕草等)を見ながらトイレ誘導の声かけを行い、出来るだけトイレで排泄できるよう自立支援に取り組んでいる。声かけや誘導は羞恥心や自尊心に配慮した支援を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便を促せるよう、腹部マッサージや乳製品の提供、センナ茶を提供している。必要に応じて便秘予防運動等をケアプランに反映させている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時はご本人様の希望に沿って入浴していただき、お一人おひとりの会話や時間を大切にしている。健康状態をチェックし体調に配慮しながら入浴していただいている。入浴をあまり好まない方へはお声掛けを工夫したり気持ちよく入浴できるよう入浴剤を選んでいただいている。	利用者の希望に沿った入浴が出来るよう支援している。また、歌や会話、季節の菖蒲湯や入浴剤等で入浴が楽しいものとなるよう取り組んでいる。入浴を好まない方には声かけや時間・対応職員を代えるなど工夫しながら入浴して頂けるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて居室や和室、ソファなど好きな場所での休息時間を設けている。夜間気持ちよく眠れるように、リネンは清潔を保っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋や服薬薬品カードをもとに薬の理解に努め、服薬変更時には経過を追えるよう、申し送り表やオンラインに記録を残している。状態に変化が無いかに注意して観察し、状態に応じて看護師及び主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	習字や裁縫、畑の手入れ、創作活動や調理等の得意な事やお好きな事を把握し、レクリエーションや生活リハビリに取り入れ、個別で対応している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望でホーム周辺の散歩をしたり、外出を好まれる方にはドライブ等支援している。希望を聞きながら地域の行事やイベントに出かけられるよう、支援している。行事では花見や行楽、紅葉狩りに出かけている。	日常的には散歩や買い物に行き、季節ごとのドライブで花見や紅葉狩りに出かけている。また、希望する利用者と一緒に地域の文化祭や地区運動会に出かけている。家族の協力により自宅・外食・買い物等へ外出の機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談しながら金銭を所持し、理容代等の支払いをする機会を設けている。自己管理が難しい方でも、ご自分で払えるよう、立替払いの体制が整っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望が聞かれた際やご家族様から電話があった際には、積極的にお話していただけるようにしている。贈り物が届いた際には職員と一緒に送り主へお礼の電話をかけている。年賀状の時期には、ご家族様へ出せるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや居室を中心に季節感のある装飾を施している。その日の天候に合わせて照明の調整を行っている。匂いや音でも生活感を感じていただけるよう、台所にて毎食調理している。定期的な換気や消臭剤を使用し臭いに注意している。	共用スペースには畳スペースやソファ、テーブルと椅子が配置され利用者が思い思いの場所で過ごせるよう配慮されている。また、季節に応じた共同作品などを飾り落ち着いた過ごせる雰囲気づくりに心がけている。事業所全体で居室・共用スペース・トイレなど生活臭の消臭に積極的に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや居室、台所等、それぞれの落ち着いた寛げる場所の把握に努め、仲の良いお客様同士がゆったり過ごせる環境を行っている。独りの時間を好まれる方にはお好きな場所でお好きなように過ごせる環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	自宅で使用していた寝具や思い出の品、ご家族様との写真等を持参していただき、居心地の良く安心して過ごせる環境作りを行っている。	持ち込みは自由である。利用者は自宅で使っていた携帯電話・大事な写真・位牌・遺影・テレビ・ラジオ等を持ち込み、利用者と家族の思いに沿った生活環境がある。ベッド・整理タンス等を配置し、居心地よく過ごせるよう配慮されている。湿度・温度管理もなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分のペースで出来るだけ自立した生活が送れるよう、トイレには貼り紙をし、わかりやすくしている。対話の中では手順よりも行動のイメージを伝え、アプローチをかけている。		